

ALL STAFF

Vol.49
2022.10

News

オールスタッフニュース

オールスタッフ & ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズの広報誌

ミュージカル

洪水の前

主演・ラサール石井さん



演出・鵜山 仁さん

インタビュー



1980年に初演された、いずみたくミュージカルの代表作「洪水の前」が、鵜山仁さんの新演出で25年ぶりに上演される。ダンスホールの司会者など5役を演じるのはラサール石井さん。イッツフォーリーズでは「てだのふあ」の演出と脚本でタッグを組んだお二人に、今作の醍醐味や意気込みを聞いた。
(濱田元子・毎日新聞論説委員兼学芸部編集委員)

— 1931年の満州事変勃発前夜、日本統治下の旧満州、大連という街が舞台です。

ラサール石井 「日本の喜劇人」で知られる小林信彦さんがエッセイか何かで、この作品が日本発ミュージカルの先駆け、と書いていたのを覚えています。タイトルで硬いイメージを持っていたのですが、よくよく聞いたら原作がブロードウェイ・ミュージカル「キャバレー」と同じの、いずみたくさんのミュージカルということを知り、合点がいきました。舞台を原作のナチスが台頭してきたベルリンから、日本が15年戦争に突入する直前の満州に置き換えるって発想がとてもすばらしいです。

鵜山 芝居で最初に「満州」がインプットされたのが、佐藤信さんの「キネマと怪人」でした。「戦争と人間」だとか、考えたら芝居や映画を通じて戦争を体験していることがすごく多いんですね。

石井 そうですね。

鵜山 井上ひさしさんに「連鎖街のひとびと」や「円生と志ん生」といった、満州が舞台の戯曲がありますが、ちょうど満州事変から日華事変(37年)に至るまでの間は、ロシアによるクリミア侵攻から今度の戦争に至るまでの動きとそっくりです。妙にひかれつつ、反発する気持ちも強い「満州」ですが、芝居にするには面白いですよ。

石井 今はちょっといやな時代になってきている。満州を舞台にした芝居は、最近の空気感と合っているというか、時代にはそぐっているんですね。沖縄を扱った「てだのふあ」もそうですけど。

鵜山 井上さんに教わった話ですが、満州国(32年建国)は国籍法がなく、国民がいなかった。アヘンの専売で儲けて、満州映画協会やハルビン交響楽団があって、奇妙な文化が花開いた奇妙な国だった。そんな、ちょっとなんでもありみたいなのを劇場でやるのは面白いかな。沖縄もそうですが、向こうへ行くとこっち側、ホームのことがよく見える。歴史や地理が相対的に見えてくる。「五族協和」(日本人、漢人、朝鮮人、満州人、蒙古人の協調を目指す満州国建国の理念)を掲げたけれど、そのツケが引き揚げの時に回ってきた。いかに表裏一体かということもよく分かります。

— 演出もそこを意識されるのでしょうか？

鵜山 表と裏とか、華やかな部分とダークな部分というのは背中合わせになんだったということを、うんと拡大して出せればいいですね。今はいろんな現実がかぶってきているので、これまで見過ごしてきたことが「へー、こういうことだったんだ」という発見につながる。そういうところで、芝居を面白く膨らませればいいなと思います。

— 石井さんは、今年7本目の舞台です。

石井 60歳を過ぎて、いつ芝居ができなくなるかわからないので、出たいものには「出たい」と言うことに方針を変えました。早稲田ミュージカル研究会出身で、ずっとミュージカルをやりたいくて、誰かオファーしてくれないかなと思っていたら、「こち亀(こちら葛飾区亀有公園前派出所)」の話がきた。その後「ヘッズ・アップ!」を作りました。出る方では劇団新感線の「メタルマクベス」で、上條恒彦さんがなさっていた役で歌わせてもらい楽しかった。だから今回はうれしくて。尊敬する財津一郎さんがやった役です。すごい人ばかりです。

(次頁へ続く)



「洪水の前」1980年 財津一郎、秋川リサ

—今回は5役演じられます。

石井 いろんな役を着替えてやるのは意外にそんな大変じゃなく、楽しいです。

鶴山 5役というのは「五役協和」、「五族協和」というか、満州にいた人のいろんな顔みたいなことと、どこかで通じているのかなとも思います。

—鶴山さんはイツフォーリーズでは今回7作目ですが、ミュージカルの演出はいかがですか？

鶴山 「てだのふあ」の二度目をやったことで、作者のラサールさんは歌詞で全然違う世界を一つにつなげることが面白くてミュージカルを書いたり、されたりしているんだと、あらためて感じました。歌詞にしないとできないこと、音楽にしないとできないことがある。

石井 そうなんです。ちょっと恥ずかしいようなことも歌に乗せると、スッと耳に入ってくる。リフレインも、ストレートプレイでやるとクサクサクなけど、歌だと心に残ります。

—俳優としての石井さんとは3作目になりますが、どんなところに魅力を感じられますか？

鶴山 どこかポエジーというか、理屈で割り切れないような遊びが

あるかなあ。そのあたり、いろいろ期待できるものがあります。財津さんも上條さんも何するものぞってところが天下無敵みたいで、うらやましいですね(笑)。

—石井さんからご覧になった鶴山さんは？

石井 彫刻家で言うと、ザクザクと木を彫って、ある程度の形にしてから細部に取りかかるっていう形ではなく、最初からちょんちょん、って細部から。これで大丈夫かなあと思っていると、きっちり出来上がる。不安に思っているわけじゃないですよ(笑)。でも非常に本質を最初からつかまえておられる。

—いまの世の中に訴求する「洪水の前」になりそうです。

石井 出てくる人たちは、自分のことで精いっぱい。戦争反対するわけではなく、何かを立ち上げるわけでもない。破綻していくのがとても哀しくて切ない。時代を超えて、楽曲やレビューシーンは楽しかったりするけど、その向こうにある哀しく切ないものを感じていただけたら。

鶴山 歴史は繰り返すっていうけど、どっちかに行っちゃったら、別の方に引き戻さなきゃいけない。なりにまかせちゃうとロクなことがない。だから、いつも反骨精神を持っていたい。全員が同じ方向に行くことだけはやめようっていう感覚、多様性をみんなで表現できればいいなと思っています。



助成 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術創造活動活性化事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会 日中国交正常化50周年

ミュージカル 洪水の前

2022年12月22日 木 ~ 28日 水

12月22	23	24	25	26	27	28	※Wキャスト出演香盤 ★矢野叶梨、成観礼
木	金	土	日	月	火	水	●終演後にイツフォーリーズによる アフターイベントあり
13:00			★				
14:00	★				★	★	
18:00		★					
19:00	★			★			開場=開演30分前

脚本=矢代静一 脚本・作詞=藤田敏雄
演出=鶴山 仁 音楽=いずみたく
音楽監督・編曲=吉田さとる 美術=乗峯雅寛 振付=川西清彦
【出演】
ラサール石井
宮田佳奈・浅野雅博(文学座)・西川大貴・藤森裕美・向谷地愛
ブッチィー・松田 周(青年座)・鈴木彩子・東城由依・矢野叶梨(W)
近藤萌音・成観 礼(W)・神野紗瑛子・松本裕子

アフターイベント

- ★23日(金) 『アフタートーク』 出演=鶴山 仁(演出)、井上麻矢(劇団こまつ座代表取締役社長)
■「洪水の前」と同じ大連を舞台にした作品の「連鎖街のひとびと」、「円生と志ん生」を公演している劇団こまつ座の井上麻矢さんをゲストに大連の魅力を語ります。
- ★24日(土) ソワレ 『イツフォーリーズ クリスマスコンサート』 出演=中山 圭、半澤 昇、吉田美緒、光由
■イツフォーリーズメンバーによるクリスマスソングとミュージカルナンバーのミニコンサート。
- ★25日(日) ソワレ 『プレゼント配り企画★三太が町にやってきた』 出演=吉田 雄、刀根友香
■25日ソワレ公演にご来場頂いた皆様に三太からクリスマスプレゼントをお届け。

ミュージカル てだのふあ



昨年と同じエミ役を務めています「おれたちは天使じゃない」が約1年半ぶりにスタートしました。新鮮な気持ちで毎公演挑んでいきたいです。キャストの半分が変わり、台本にも大幅な変更があり、私自身もこの1年半に色々な経験がありました。それは舞台に立つことだけでなく、人生の中での出会いや別れです。いい出会いがあればそうでない出会いもあり、別れは哀しいものばかりだけれど前に進むための別れもあるのかもしれない、そんなことを身近に感じ考えることがたくさんありました。この作品の中でも出会いや別れが多く描かれ、それぞれが必死に『今』を生きています。まだ30年も生きていない私ですが、これはきっと誰かの日常であり、明日は私であなたかもしれないと思えてなりません。自分の役により愛情を感じ登場人物をさらに深く感じられるようになった、そんな再演のスタートです。初演よりもさらに濃く、そして新鮮に『今』をしっかり生きていきたいです。(大川 永)

いずみたく没30年メモリアル企画 ぼくたちの音を楽しむ ~いずみたくと中村八大の歌物語~ いずみたく没30年メモリアル公演を終えて



2019年の初演から3年の時を経て、沖縄本土復帰50年という節目を迎えた本年。ミュージカル「てだのふあ」は9月2日・3日ルネこだいらでのプレビュー公演に始まり、静岡県と今作の舞台でもある神戸を含む近畿での巡演、全22公演を終えました。ふうちゃん役、初演から続投の星茜音さんと、今回からの大村響叶さん、二人はまさにカンパニーの太陽で、明るく直向きなお芝居が好評でした。そして今回の見所はやはり、物語を包む音楽でしょう。ふうちゃんのお母さん役を演じたのは、沖縄県出身のシンガー普天間かおりさん。普天間さんとイツフォーリーズが織りなすハーモニーに会場からはすすり泣く声も聞こえました。出演者が生演奏した三線も、夏からの猛練習あって大好評でした。この作品を通して沖縄の心に触れ、そして身近な人の小さな歴史を考える、そんなきっかけとなっていれば幸いです。またいつの日か、てだのふあ・おきなわ亭で皆様にお会いできる日を楽しみにしております。またん、めんそーれ!(吉田美緒)

ミュージカル おれたちは天使じゃない



いずみたくの没後30年の節目をどのように迎えるか、ずっと考えていました。5年毎の周年行事として、劇団が存続してきたことの証として企画してきましたが、そろそろ、周年行事の公演も最後になるかもしれないとも思いつつ、今回の企画を考えました。今までずっと意識してきたのに、一度も実施できなかった、中村八大さんとコンサート。二人が同時期に亡くなった1992年の追悼コンサートだけが唯一でした。どちらが作曲者かよく間違えられました。曲調が似ている訳ではないけれど、持っているオーラというか、曲想が似ているのかもしれない。そんな二大作曲家の楽曲を並べてコンサートできたら、昭和から生まれたスタンダードの歌々が披露できると思いました。二人の軌跡は、先端であり、流行であり、普遍。誕生とお別れに縁があり、どちらも波瀾万丈で、ずっとお互い意識するように導かれています。今までも、そしてこれからも。今陽子さんを始め、縁ある方々から、初めての出会いのベイビーブーの皆さんまで素敵な出演者に囲まれてメモリアル公演を実施できたこと、感謝です。昭和を感じさせながら今と未来に繋がるものを見ている舞台に、30年と言わず、この二人の歌の舞台はまだまだ続けていける可能性を感じました。(土屋友紀子)

おジャマします! となりの稽古場

#21 劇団 横浜桜座

レポート 土屋友紀子

横浜ラポールシアターを拠点に、障がい者の俳優たちと立ち上げた劇団で、7年前に法人化し一般社団法人グランツとして運営。プロデューサーは介護免許も保有し、支援センターとともに活動。さらには2019年より定期的にプロデュース公演も実施している。

下北沢の本多スタジオがまもなく閉鎖されます。そこで現在稽古中の一般社団法人グランツの横浜桜座プロデュース公演の稽古にお邪魔しました。演出は来年『バウムクーヘンとヒロシマ』でご一緒する磯村純さん。幅広い団体から集ったこのカンパニーの思いを尋ねると「桜座さんは障がい者の理解を深めることをコンセプトに、障がい者の俳優と共に作る活動をしています。僕はこのプロデュースに2回目から参加。障がい者を表現することはとてもデリケートですが、中途半端にならないよう、リアルな表現を求めています」と語ります。プロの俳優と、劇団横浜桜座の劇団員が日替わりで参加する舞台です。我が劇団の神澤直也も3回目のプロデュース公演に出演しています。

プロデューサーの飯田浩志さんは、俳優活動を断念して介護の仕事についた際、障害者のレクリエーションとリハビリテーションのスポーツ施設である横浜ラポールで、障がい者スポーツに出会ったそうです。そこで障がいを持ちながら、高いメンタルと技術で競技を行う選手たちに刺激を受けて、約10年前に障がいを持つ俳優と舞台を作る企画を横浜ラポールに提出。それがきっかけで、劇団「横浜桜座」を立ち上げ、後に法人化をしました。プロの俳優との共演するプロデュース公演は今回で4本目。しかも、通常の活動場所であるラポールシアターだけではなく、下北沢と大阪にも進出。「思いつきです……何にも考えてなくて、やっちゃおうって思って企画しました」と明るく語りますが、現場は俳優とプロデュースと現場制作の兼

左がプロデューサーの飯田浩志さん、右は演出の磯村純さん▶

今年でクローズする本多スタジオ高が絡まる趣のある稽古場 様々な劇団の思いが詰まっています▼



任。無茶苦茶お忙しいはず。磯村さんに演出を依頼したのは尊敬する大学の先輩だからだとか。今回は横浜ラポールでの劇団員の取材ができませんでしたが、是非稽古場に伺いたくなりました。次回本公演は来年の3月とのこと。とても楽しみです。

次回劇団本公演 2023年3月25日～26日
横浜ラポール ラポールシアター 作・演出 飯田浩志

音楽出版

オールスタッフでは、いずみたくの楽曲をはじめとする著作権管理も事業のひとつです。最近、使用された「いずみたく楽曲」をご紹介します

見上げてごらん夜の星を

- 2022年4月6日リリース 三上ひろし「三山ひろしが唄う!-懐かしの名曲100選-」(CD)
- 2022年9月11日リリース 田村優子「紅い月」(CD)
- 2022年9月21日リリース 原田波人「Good Time Music ～POPO WAVES バンド～」(CD)
- 2022年9月28日～ ヤマトホールディングス「再生可能エネルギーで動かす物流」篇(TV・CM)

いいじゃないの幸せならば

- 2022年6月22日リリース 高田京子「いいじゃないの幸せならば」(CD)

恋の季節

- 2022年7月20日リリース マリーン「MARLENE'S SONG BOOK」～MEMORIES FOR TOMORROW～(CD)
- 2022年10月1日リリース ジミー入枝「ポップ・ポップ」(CD)

いい湯だな

- 2022年7月26日～ 日本マクドナルド株式会社「ハワイだよ! 全員集合」(TV・CM)

ゲゲゲの鬼太郎

- 2022年7月19日～ 韓国にてテレビ放送開始
- 2022年7月29日～8月15日 明治座 舞台「ゲゲゲの鬼太郎」
- 2022年8月19日～28日 梅田芸術劇場メインホール 舞台「ゲゲゲの鬼太郎」

いずみたく「ビクター・トレジャー・アーカイブス」発売!

没後30年を記念した「いずみたくソングブック」に続き、「ビクター・トレジャー・アーカイブス」が発売。いずみたくがビクター専属時代の代表作はもとより、初CD化が10曲も入っています。私が気になっている曲は「独立サラリーマン」「交通戦争はイヤ」「星はぼくらの仲間」「ラッキーセブン」です。なんて悩ましいタイトル! いずみたくファンは是非、聞いてみてください。今や一家に1個のソングブックも引き続き販売中です。(中島康江)

ビクター・トレジャー・アーカイブス「いずみたくビクター・イヤーズ」
2022年11月23日リリース 2枚組 価格 3,520円(税込)



蔵前MAPをつくらう

寿司 菊正
東京都台東区蔵前4丁目1-7
電話 03-3866-0008
営業時間 11:40～14:30/17:15～22:30
定休日 日曜

今年6月15日に私たちの事務所裏へ建替により移転をして来た寿司「菊正」。それまでは蔵前一丁目交差点近くの江戸通り沿いにお店を構えていました。その頃もランチを食べに時々は行っていたのですが、すぐ近くになってからは頻繁に通うようになりました。菊正は新宿西口の本店からのれん分けして蔵前にお店を構えたのが昭和33年。その店主が亡きあと、昭和48年にお店を継いだのが、菊正で修行を積んでいた増子敏春さん。今年で49年目です。奥様の江里子さんと切り盛りしているお店は、いつも常連客でいっぱい。浅草が近いからか外国からのお客も多いそうです。勤務先が蔵前から横浜に移っても通って来る方もあるとのこと。そして、いつも元気にお店のお手伝いをしている長谷川渚子(せつこ)さんは今年82歳!今でも自転車で配達も行くパワフルな女性です。オススメは2,000円のお食事券!なんと2,200円分の食事が出来ます。200円もオトク!2,200円の特選寿司の「ぎり」が2000円で食べられます。5回お食事券で食べると千円オトク!寿司好き劇団員の石井董にランチのバラ寿司1,000円を馳走出来ます!お寿司やお刺身に飲み物が付いた特別セットが2,800円なので、お食事券で頼めば2,600円、お酒付きですがお昼の時間でも頼めます。イツフォーリーズの稽古場に来た際は、ぜひ、立ち寄ってみてください!オススメはお食事券!(中島康江)



▲店主の増子さん。公演のチラシも店内に貼ってくれています。移転前の場所にはマンションが建つそうで、そこに戻るかどうかは未だ決めていないそうです。

◀大トロ、いくらも付いた特選の「ぎり」。ちらしにも出来ます。ランチはサラダ、お味噌汁もついて1,000円、にぎり7品巻物1本が1,200円。テイクアウトも出来ます(サラダなし)。

イツフォーリーズのワークショップ

「ティーンズプラザ富士見台」と共に歩んだ17年

品川区には9館整備されている、ティーンズに特化した児童センターがあります。そのうちのティーンズプラザ富士見台のコンセプトは、ミュージカルづくりで、イツフォーリーズは2005年の開設当初から携わってきました。ワークショップは私たちにあって「指導」ではなく、共に「創作」する実践の場です。

「初めは教えてもらい発表するという指導に近く、職員も何とか形にしよう和小道具からポスター制作まで手探りの状態。日々の仕事に追われどういふスタンスで参加者を集めたらいいのかわかりませんでした。当時は本人の意思ではなく、親に『行きなさい』と言われてくる子どもも多かった。そういう子どもたちのモチベーションをどうやって上げていったらいいのか」と森館長。当初、職員として現場担当をされていましたが、巡り巡って今年から館長に。開設5年後あたりから、だんだんと意欲的な子ども達が増え、10年くらい経つと、ポスターなども自主的に作り、脚本・演出も行うようになりました。職員として音響・照明をはじめ、子ども達を支えてくださっている高木真唯さんも「ミュージカルの発表では、子どもたちが楽しそうにキラキラしていて『すごいなあ!』と思いました」と言っていました。



数年続けているメンバーに、参加した動機を聞くと「歌ったり踊ったりするのが好きだから」と口を揃えて言います。高校演劇部の女子は「ここは楽しい。学校では先輩が決めるから、あまり意見は言えないけど、ここでは年齢も関係なく意見を言える」と。高校生の男子は、せりふが苦手で、家でもたくさん練習し、大変だったそうですが、ずっと続けようと思った、と言ってくれました。

17年間続けてきたことに対して森館長は「プロが入っている館は他にもありますが、こんなに長期間、大人数の参加というのは珍しい。職員はすぐに入れ替わってしまうけど、フォーリーズの方はあまり変わらない。だから発展していったんでしょね。区もミュージカルを応援しているんです」と語ります。

今年で18年目。近年は卒業してからも、ミュージカルのサポーターとして関わる人も増えました。今後は子どもに限らず、地域の居場所として変化をしていくのかもしれない。(中山 圭)

似島臨海少年の家の前でブンさんと重末貴文さんと。左から森山真衣、重末さん、中島康江、森隆二、土屋友紀子。制作二人は広島リスペクトの赤T!▶

森 隆 二

「baumクーヘンとヒロシマ」の舞台となる地を訪ね、baumクーヘン手作り体験をしました。

広島港からフェリーで20分の瀬戸内海に浮かぶ似島。

かつて陸軍の検疫所があった島で、第一次大戦の時、中国の青島に居たカール・ユーハイムが連れてこられたのが、第二検疫所に併設されたドイツ人俘虜収容所。ここで、彼が作ったのが日本で最初のbaumクーヘンなのだそう。今、その場所は似島臨海少年自然の家になっていて、baumクーヘン作り体験をさせてもらえるというわけです。

原作にもこの件は書いてあり、きっと本作でも語られると思うのでこの辺にして。

いよいよ、作業に取り掛かります。指導して下さるのは、本作にも登場する「ブンさん」のモデル、重末貴文さん。当時とほぼ同じ材料と調理方法で作るということで、メレンゲ作りも当然手動、ハンドミキサーを使わず泡立て器をひたすらかき回す社長と森山。見事なツノが立ちました。素晴らしい!

その間私は卵黄に砂糖と薄力粉を加え、ダマにならないよう混ぜていく。ああ、お菓子を作るのってこんなに繊細な作業の連続なのね。有難みが分かってなかったわーと、反省する。



さて、生地が出来ていよいよ焼く作業。竹の両端を2人で持って回すのか。ハンドルが付いてクルクル回すなんてのを想像してたけど、当時その場で手に入るもので作ったのだからそりゃそうだ。生地の水分が無くなり、焦げ目が付きはじめる瞬間がなんとも心地いい。

層を重ねていくほどに作業も手馴れていく。大体そういう時に失敗するのが私のいつものパターンなのだが、今日は頼もしい仲間がいるから大丈夫。ブンさんも誉めてくれるほどの出来となりました。



試食。想像してた以上に美味しい! 大正時代、この味に出会ったら、そりゃ押すな押すなの大盛況になるでしょう。

体験を終えた後、自然の家の敷地内に居る樹齢130歳超の「くすの木じいさん」に会ってきました。このじいさんも本作に登場します。え、木が? どのように? こちらもお楽しみに。



森 山 真 衣

物心ついた頃からbaumクーヘンは特別な存在でした。「baumクーヘンとヒロシマ」を初めて読んだ時、その理由がハッキリとわかりました。私、baumクーヘン作ったことある!! 正確には、側で見ていただけでしたが、竹に垂らした生地がじんわりと焼けていく様を見た事があったのです。美味しい匂いがして、タラタラと生地が落ちて、ふっくらと焼きあがる。うっとり眺めていたちびっこい自分が思い出されます。大人になって、改めて体験することになるなんて! 期待を胸に、広島旅がスタートしました。

新幹線を降りたのは、似島に行く前日のお昼頃。1日目は、はじめての一人旅です。路面電車を降りて横断歩道を渡り、まず向かったのは原爆ドーム。baumクーヘンが日本で売られた初めての場所、広島県物産陳列館。テレビや雑誌で何度も見たその建物は、とても重く、静かでした。生き活きとした緑に囲まれた真っ黒なその建物を、近くから、遠くから、長いこと眺めました。

その後広島平和記念資料館に入り、ゆっくりと中をまわりました。堪えても堪えても涙が溢れてしまうほど、悲しく辛い空間でした。暗い展示場を抜けて大きな窓のある広間に出ると、平和記念公園の弾けるような緑が、暖かい秋の光と共に差し込んできました。安心と疲労でしばらく動けませんでした。平和な世界をずっと続けていくためにはどうしたらいいだろう。今までよりもずっと重く感じられました。

そんな思いを抱えながら2日目、森さんたちと合流し、いよいよ似島に。原作にも登場する「ブンさん」はとっても優しい方でした。柔らかな空気の中、baumクーヘン作りが始まりました。まずは卵10個分のメレンゲを泡立てます。社長の見事な手捌きに感動しつつ、空気を含ませながらかき混ぜます。目の前では森さんが卵黄とお砂糖を混ぜています。これ、ペロっとなめたら美味しいんだよね~!! なんて考えていたら、メレンゲに



左上▶ホタテの貝殻がたくさん海に浸かっていたのでホタテの養殖かと思いきや、聞けば牡蠣の養殖というじゃないですか! 東京から来たんじゃないらじやるが、ということで養殖場も見学させて頂きました。

右上▶昭和46(1971)年10月、似島中学校のグラウンドから被爆時に仮埋葬された被爆者517体の遺骨が見つかりました。似島には日清戦争から第二次世界大戦にかけての多くの戦跡があります。



上▶馬匹(ばひつ)検疫所焼却炉跡。馬匹検疫所とは、戦地から帰還した軍馬を診察して外地からの病原菌や病害虫の侵入を防いだりするための施設。原爆投下により多くの人が似島へ運び込まれなくなり、遺体の処理にも利用されました。焼却炉発掘当時、スコップ300杯分の遺骨が確認されたそうです。

右上▶第二検疫所の井戸も見学しました。明治37(1904)年、日露戦争の開始と共に建設された第二検疫所の重要な生活用の水源として利用されました。昭和20(1945)年8月6日の原爆投下時に、この井戸の水が多くの被災者の救護に使われました。平成23(2011)年8月6日から広島平和記念式典の献水の一つとして使用されているそうです。(中島康江)

ASPイツツフォーリーズ公演

ミュージカル Baumクーヘンとヒロシマ

※公演情報はP8に掲載

似島(にのしま)で Baumクーヘンを作ってきた!



艶が出てきました。ブンさんが泡立て器でピョンとツノを立て、出来上がったメレンゲのボウルをヒョイッとひっくり返しました。みんなの心臓がヒヤッとしたところで、「うん! 綺麗にできています!」と褒めてくださいました。笑顔ですごく嬉しい! ブンさん!! とにかく、大変なのはここまで。卵黄と砂糖、小麦粉に、メレンゲをさっくり混ぜ合わせ、生地の完成です! ペロっと、ペロっと舐めたい欲求を抑えて、いよいよ火の上へ。生地を垂らす竹は、少し炙って殺菌、だんだんとツヤが出てきます。この竹ももちろん似島産です。まず最初に、ブンさんがお手本を見せてくださいました。おたまですくって生地をかけ、クルクルと回して竹に巻き付けていきます。垂れ落ちていくツヤツヤの黄色の生地がたまりません! ボウルには、温められて柔らかくなった生地が溜まります! そして、火の上に。竹を回すのを止めてはいけません。白っぽくなり、じんわりと焼き目が浮き上がると、「わ~!」とみんなが声を上げました。本当に、とってもとっても美しかったです。すぐさま次へ。生地をかけ、クルクル回し、焼き目をつけて、また生地をかける。単純な作業だけど、毎回毎回違う姿になるのが愛おしい! みんなでひとつの物を作るのは本当に楽しくて、とっても幸せでした。

出来上がったbaumクーヘンは、一枚一枚に焦げ目がついて、本当に木(baum)のようでした。食べてみると、外側はさっくり、内側はしっとり、じんわりと甘くて、卵を感じる素朴な味。美味しい!! みんなが笑顔になりました。私たちの作ったbaumクーヘンは、小さな平和を作ったのです。その後、島を一周し、海や山、木や花、石、砂、沢山の物に触りました。その全てがとても温かったです。所々に戦争の記憶が眠る似島は、優しさ、笑顔のあふれる島でした。平和について考えること、平和な世界を作り続けること。戦争を忘れないこと。また大切にしたい事が増えました。この二日間のことはきっといつまでも忘れません。



◀富士山に似ている島、ということから似島という説もあるそうです

Baumクーヘンを作ろう!

材料=薄力粉250g、卵10個、バター1箱(200g)、砂糖250g
◀卵を白身と黄身に分け、白身は泡立てます。黄身は潰して、砂糖、バター、薄力粉を別々に加えていきます。混ぜたら、メレンゲ状の白身と黄身を合体。



炭に火が付いたら竹を温めます。竹には節ごとに小さな穴を開けて割れないようにします。竹も似島産!▶



◀竹が温まったらお玉で生地を掛けます。竹をトントン叩いて余分な生地をボウルに落とします。そして焼く! 竹を持つ二人はかなり熱い!



焦げ目がついたら、また生地を竹にかけます。この繰り返しの繰り返し!▶
重ねていくと焦げ目はすぐにつきまます▼



時々、竹を斜めにする「シーソー」をして、生地の端も火が通るようにします▶

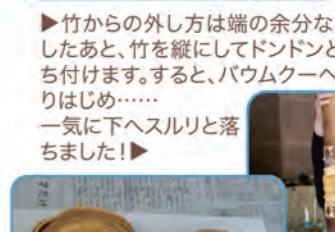


◀だんだん太くなってきました! トゲトゲがつくと、お店で売っているbaumクーヘンのように見えます▶

焼き上がり!



◀両端の余分なところをカット。ここは味がまた違うのが不思議です



▶竹からの外し方は端の余分なところをカットしたあと、竹を縦にしてドンドンとテーブルに打ち付けます。すると、baumクーヘンが下へ下がりはじめ……一気に下へスルスルと落ちました!▶



いただきます!



◀ちゃんと年輪になってる!

似島臨海少年の家は2023年4月から建て替え工事のため休館。baumクーヘンを焼くなら3月中に! 平和学習の一環として必ずご予約を。宿泊も出来ます!

小さい島の、商業施設の何もない似島には、たくさんの歴史が詰まっています。作品の中身を深めるために、現地に赴くことはとても重要だと思っています。実際に現場の空気を吸って、触れて、嗅いで、目に焼き付けること。書籍では学びきれなかった当時の貴重な井戸水や、亡くなった被爆者のための焼却炉を直接拝見し、改めて広島市の似島を知りました。今回、素焼きのbaumクーヘンを体験し、試食したことは、何よりの感動でしたが、大自然の中で材料も道具も手に入らない似島で生まれたbaumクーヘンが100年続くようになったのは、当時

の日本の子もたちの笑顔であったこと、それがカール・ユーハイムの心を動かしたことです。「お菓子作りは世界の平和の力になる」というユーハイムのスローガン。決して企業の理念だけでなく、今の社会に通じる思いであると感じました。この体験がちゃんと舞台成果に繋がるよう、頑張ります。(土屋友紀子)

イツフォーリーズ活動状況

ミュージカル

おれたちは天使じゃない

11月17日(木)～19日(土) 千葉県千葉市
 22日(火)～23日(祝水) 埼玉県さいたま市
 24日(木)～25日(金) 神奈川県川崎市
 27日(日) 千葉県松戸市
 29日(火) 東京都立川市
 30日(水)～12月 2日(金) 千葉県船橋市
 3日(土) 東京都北区
 5日(月) 東京都板橋区
 6日(火)～ 7日(水) 東京都練馬区

ミュージカル

小さいつが消えた日

11月23日(祝水) 東京都町田市

ミュージカル

洪水の前

12月22日(木)～28日(水) 恵比寿・エコー劇場

Bookライブキエク

森が海をつくる

2023年
 1月17日(火) 京都府京都市
 24日(火)～25日(水) 埼玉県三郷市
 26日(木)～27日(金) 東京都新宿区
 2月 1日(水) 東京都北区

イツフォーリーズ新人公演

2023年
 3月11日(土)～12日(日) 浅草九劇

ミュージカル

バウムクーヘンとヒロシマ

2023年
 3月26日(日)～30日(木) 俳優座劇場

ミュージカル

ピエタ

2023年
 5月18日(木)～24日(水) 俳優座劇場

140文字内

編集後記

私の大連のイメージはサイバーパンク。なので「洪水の前」のチラシ背景はAIのMidjourneyに「Dalian 1930's neon cyber punk rain night China」と指示。「ブレードランナー」の「二つで充分ですよ!」の場面のようなイラストを描いてくれました。全体の雰囲気は『ジョジョ・ラビット』のオマージュです。(中島)

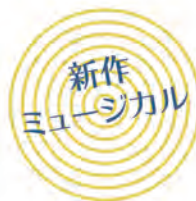
天王星食が見られるという晴天の夜空。5000年間にもなかった特別な天体食だったはずなのに、いろんな仕事に追われて失念。すでに帰宅するころには、十五夜が何事もなかったようにキレイに輝いていました。仕事も大事だけど、自然上の世紀のタイミング、逃したらいけないなあ…。ね、お月さま。(Y)



2022年10月22日～23日までイツフォーリーズ稽古場にて朗読劇「再生」の公演を行いました。

本事業は文化庁、公益社団法人日本劇団協議会の主催による「令和4年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」日本の演劇人を育てるプロジェクト「日本の劇」戯曲賞2021佳作リーディング公演として、弊社は制作協力で携わっていました。今回は佳作でしたが、次回は劇場で公演出来る戯曲に出会えることを願っています。(松本峻汰)

朗読劇 再生



2023都民芸術フェスティバル
 ASPイツフォーリーズ公演

ミュージカル バウムクーヘンとヒロシマ

2023年
 3月26日(日)～30日(木) 俳優座劇場

◎前売開始◎2023年1月26日(木)

原作＝巢山ひろみ(くもん出版刊)
 脚本・作詞＝大西弘記(TOKYOハンバーグ) 演出＝磯村 純(青年座)
 音楽＝田中和音

出演＝財津優太郎、上原りさ、石鍋多加史
 森山真衣(W) / 吉田美緒(W)、金村 瞳(W) / 鈴木彩子(W)
 森 隆二、畑中竜也、中山 圭、東城由依、成観 礼、刀根友香、半澤 昇
 ※一部Wキャスト



絵・題字＝銀杏早苗

劇団員

森 隆二・明羽美姫・米谷美穂・藤森裕美・堀内俊哉・金村 瞳・浅川仁志・中山 圭・大浴ちひろ・大西健次・吉田 雄・水谷圭見・鈴木彩子
 石川裕梨・田中愛実・吉村健洋・大川 永・加藤木風舞・宮田佳奈・山川優海・東城由依・藤廣果歩・三谷千季・矢野叶梨・刀根友香・向谷地愛・近藤萌音・成観 礼
 杉尾優香・徳岡 明・神野紗瑛子・神澤直也・半澤 昇・藤田朋花・松本裕子・石井 董・尾ノ上彩花・日野七乃葉・森山真衣・岩城風羽・加藤 梓・吉田美緒
 青山悠生・石塚結生・平 葉月・出口和慎・緋宮 寿・身内ソラ・光由・森島美玖 / 井上一馬・澤田美紀・茂木沙月

■オールスタッフ所属 吉田さとる 坂口阿紀 河本章宏

■ワークショップ講師 今宮多力香

オールスタッフニュース Vol.49

発行日 2022年11月15日
 発行 株式会社オールスタッフ 〒111-0051 東京都台東区蔵前2-4-5 K-FRONTビル8F 電話 03-5823-1055 FAX 03-5823-1054 <https://www.allstaff.co.jp>
 発行人 土屋友紀子 編集・レイアウト 中島康江 執筆・編集 土屋由美 / 吉田健二 / 安念 透 / 松本峻汰・鎌田奈々美・田中みゆき / 秦 明子・平澤真帆
 執筆 イツフォーリーズ(森 隆二・中山 圭・大川 永・森山真衣・吉田美緒) 写真 日高仁・岩田えり・安念 勉